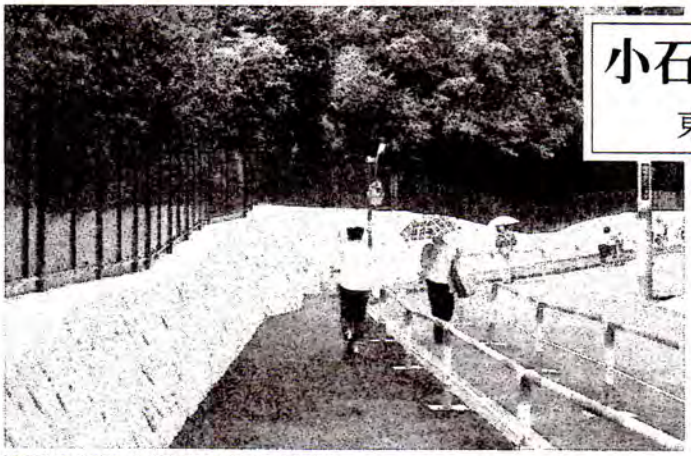
クローズアップ

小石川植物園
東京・文京



拡幅の新設と道路の拡幅が終わった南側道路＝５月24日、文京区

東京都文京区の小石川植物園（東京大学大学院理学系研究科付属植物園）で、既存の塀を撤去して敷地の一部を削り、一方通行の周辺道路（区道）を拡幅する工事が進められています。日本最古の植物園の貴重な樹木が伐採されるなか、区と東大に工事の見直しを求める署名が1万2000人分を超えるなど、植物園を守ろうという住民の運動が広がっています。（二宮亜里）

区道拡幅を見直して 貴重な樹木守れと住民

区と東大に署名1万2000人分

約16万平方㍍の敷地に約4000種の植物が栽培される園内に足を踏み入れると、都心とは思えないうっそうとした森林が広がります。

徳川幕府の「小石川御薬園」を前身とする同園は、日本の近代植物学発祥の地であり、現在でも東アジアの植物研究の世界的センターとして機能しています。

文化審議会は15日、同園を名勝および史跡に指定するよう平野博文文部科学相に答申しました。

道路整備計画は、園南側と西側の塀を最大2・9㍍後退させて遊歩道とともに新設し、南側道路を幅約5・3㍍から約7㍍へ、西側道路を幅約6・3㍍から約7・5㍍へそれぞれ拡幅するもの。区は「植物園と一体的な歩行空間の整備」を行うとしています。

生態系に危害

東大は長らく、資金難を理由に塀の改修をしてきませんでした。区は2009年、国の交付金を使った総額約5億円の計画を提案。同年12月、東大は区に無償で道路拡幅分（1277平方㍍）の敷地を永久貸与するという協定を区との間で締結しました。

工事は昨年9月、南側道路から着工されました。西側道路の工事開始時期は決まっていません。

「植物園と一体的な整備といいながら、園の生態系や歴史に危害を及ぼす暴挙だ」。周辺住民でつくる「小石川植物園を守る会」の稲葉信子さんらは憤りを隠せません。同会によると、巨木が連なる園の辺縁部は地面を3㍍以上も掘り下げられ、草木は根こそぎ削りとられました。計画を大きく上回る樹木の伐採、移植、剪定（せんてい）が強行され、残された木々も幹が傷つき根を切断されました。

歴史的な遺産

会のメンバーは道路の交通量を調査し「平日も休日も人通りは少ない。道路の拡幅は必要ない」と訴えます。

日本共産党区議団は、区に対して工事の見直しを求める申し入れを行い、島元雅夫区議団長は「工事によって一方通行の生活道路が拡幅されると、自動車の抜け道になり危険が増す」と指摘しました。

同会は、計画の見直しと住民への説明を求めて、区と東大に陳情や要望を重ねています。稲葉さんらは「小石川植物園は生態系の聖域。1700年代からの形状を保ってきた歴史的遺産の園を大切にしてほしい」と訴えます。

本紙の取材に対して区は「協定に基づいて工事を進めたい」、東大は「工事で園の価値が損なわれるとは考えていない」と答えています。

共産党区議団 抜本的見直し区に申し入れ

日本共産党文京区議団（6人）は、区に対して▽工事の抜本的見直しを行う▽塀の後退幅を最小限にして樹木の伐採をしない▽近隣住民や景観を守ることを望む区民などの意見に耳を傾ける―ことなどを2回にわたって申し入れています。

島元雅夫区議団長は「党区議団は以前から、住民とともに植物園の価値を守り生かす運動に取り組んできました。引き続き区議会で、計画の見直しや園の歴史的・景観的資源を守ること、住民が納得できる説明などを求めたい」と話しています。